

特別な配慮を  
必要とする

## こどもたちの育ちをつなぐ連携体制づくり

幼児教育・保育施設においては、障害の有無にかかわらず全ての幼児に対し、遊びを中心とした幼児期にふさわしい生活を通して、一人一人の特性に応じた指導が行われます。幼児教育・保育施設においては、特別な配慮を必要とする幼児などに対しての特別な教育課程は存在しません。だからこそ、個別の教育支援計画及び個別の指導計画が重要になります。配慮を必要とする幼児への支援を、個々の職員が取り組むのではなく、組織で対応し、関係機関等との連携を図りながら進めていきましょう。

### 【参考資料】

「障害のある幼児と共に育つ生活の理解と指導(令和5年3月)」  
(文部科学省)



「特別支援教育指導資料(令和5年版)」  
(千葉県教育委員会)



特別支援コーディネーターとは、園・校内での特別支援の連携体制の構築や、学校や他機関等との連携協力体制を整備する役割を担う存在です。市内の小中学校全てに設置されていますので、特別支援コーディネーターが特別な配慮を必要とするこどもの「架け橋」となります。



個性や配慮が  
必要なことなど

## こどもの育ちを保護者とも共有しよう

個別のサポートファイルの活用は、乳幼児から成人に至るまで、こどもとその家族の支援が継続的に行われるよう、各機関で情報を共有し、必要な支援に結び付けることを目的としています。



※詳しくは、  
幼児期は児童発達支援センターへ、  
児童期は教育委員会指導課教育研究企画室へ  
お問い合わせください。

### Q1 どんな時に使うのですか？

**A. 次のような場面で保護者が確認したり提示したりします。**

- ・入学、進級、進学、就労などに関わる人が変わる時
- ・医療機関等を受診するの時や福祉サービスの利用の時
- ・学校、その他の機関に相談する時

### Q2 どんな利点があるのですか？

**A. 次のような良さが考えられます。**

- ・今まで積み上げられたお子さんの情報が、次の学年、進学先に引き継がれます。
- ・不安なことがあった時に、ファイルを活用することで担任や関係機関の方と一緒に考えることができます。
- ・医療やその他の機関に相談する時、お子さんの様子が的確に伝わります。

# 「架け橋期」の こどもの育ちについて話し合おう ～「架け橋期カリキュラム」作成に向けて～



流山市は、急激な幼児・児童数の増加に伴い、幼児教育・保育施設が増加しており、こどもたちを取り巻く環境が大きく変化しています。また、学校現場では、「令和の日本型学校教育」へのアップデート及び「多様化」への対応など、大きな変革期を迎えています。

流山市のこどもたちが、自分らしさを発揮して、輝けるように、  
幼児期に「遊び」とおして小学校以降の「学びの芽生え」を育む…  
小学校ではさらに、一人一人のこどもたちが主体的に学び、経験や体験を通して自ら問題を解決できる力を伸ばしていく…

幼児教育と小学校教育をつなぐ、「架け橋期（5歳児から小学校1年生までの2年間）」の教育について、幼保小が連携して一緒に考えていきませんか？

流山市教育委員会  
流山市架け橋期カリキュラム推進会議  
(令和7年3月発行)

## 遊びは学び！学びは遊び！育ちを共に見つめ語り合おう

※（ ）内には、主にみられる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を標記しています。詳しくは、p.5～6 参照。

幼児期のこどもたちは、自主的・主体的に人やものに関わりながら、遊びを通して必要な能力や態度を獲得しています。遊びに夢中になる中で、試行錯誤しながら、幼児期のこどもたちは「学びの芽生え」を育む体験を重ねています。小学校が0（ゼロ）からのスタートではないのです。幼児期の豊かな学びと成長を踏まえて、こどもたちが主体的に自己を発揮できるように、小学校が幼児教育・保育から学ぶ。幼児教育・保育施設が小学校を見通す。それぞれの教育の内容を充実させるために、まずは、互いを知り合うことから始めましょう。

一緒に大きくしよう！

黄色と赤を混ぜると、オレンジになったよ！太陽みたい！



【ねらい】絵の具を使って、おもいっきり表現することを楽しむ。  
【活動の内容】大きな場所に手のひらいっぱい使って、友達と一緒に描いて遊ぶ。  
（豊かな感性と表現／協同性）

### こどもたちの資質・能力のつながり

「さわって まぜて きもちいい」【図画工作】  
○手や指を使って描く気持ちよさを味わう。  
【主体的に学習に取り組む態度】  
○手や指を使った描き方の工夫をする。【知識及び技能】  
○とろとろ絵の具でかきたいことやものを考える。  
【思考力・判断力・表現力等】



手のひらでドン！指でトントン！桜の木ができた。そうだ、春のピクニックを描こう！

【ねらい】身近な自然の変化に気づき、遊びに取り入れる。  
【活動の内容】木の実や木の葉を使ったお料理ごっこを楽しむ。  
（自然との関わり・生命尊重／協同性）



まん丸ドングリはお肉みたい！葉っぱも入れておいしいスープをつくらうよ！

にんじんも入れたいな！黄色い葉っぱも向こうにあったよ！とってこようよ！

あきとなかよし【生活】  
○秋の自然物を他のものに見立てたり、その特徴を生かしたりして、実際に作りながらより楽しいおもちゃにするにはどうしたらよいか考える。【思考力・判断力・表現力等】



この穴に入ると10点だよ！

## 幼児期【学びの芽生え】

見学会【保育所（園）・幼稚園・認定こども園】



幼児期にたくさんのことを経験していることに改めて気づきました。培った力を、小学校でも生かせるようにしたいです！（小学校教諭）

### こどもの学びをつなげる職員間の連携

合同研修・幼保小の垣根を超えた対話



幼児期から小学校につながる土台の部分を共通理解して、みんなでこどもたちのために考えたいです。（幼稚園職員）

小学校の各教科の学習と園でのすべての遊びとが繋がっていることに気づきました。（保育園職員）

## 小学校【自覚的な学び】

見学会【小学校】



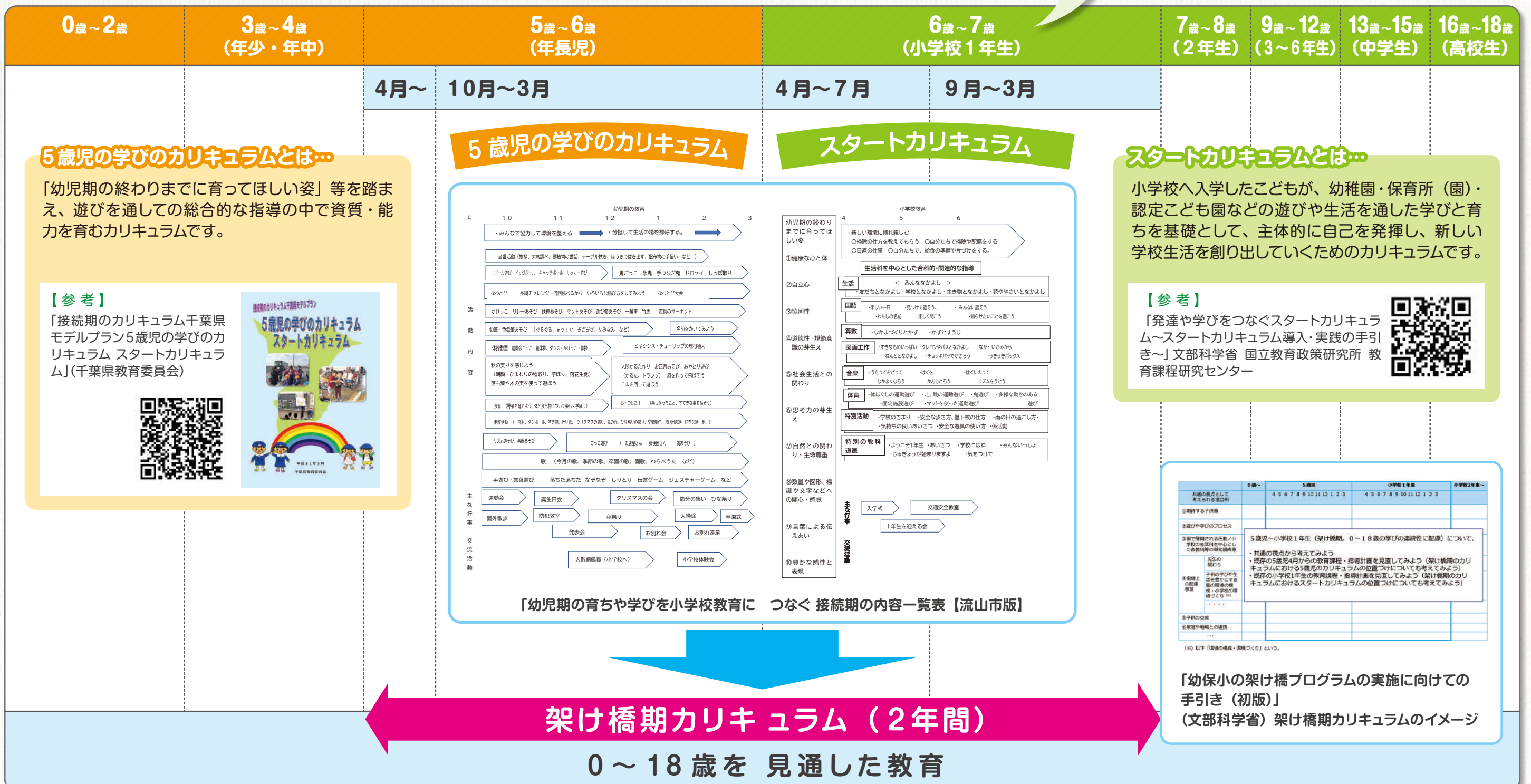
# 生涯の学びの基盤を「つなぐ」架け橋期のカリキュラム

これまでの幼保小連携は、年長の10月頃から1年生の夏休み頃までを「接続期」として、幼児教育・保育施設では「5歳児の学びのカリキュラム」に、小学校では「スタートカリキュラム」に取り組めるよう、流山市幼児教育支援センターでも「幼児期の育ちや学びを小学校教育につなぐ 接続期の内容一覧表【流山市版】」を配付してきました。

しかし、「5歳児のカリキュラム」と「スタートカリキュラム」が各校・園で別々に策定されていて共通していないこと、幼保小の円滑な接続を図り、それぞれの内容を充実させるには数カ月程度では不十分であることなどの課題がありました。

そのことから、幼児教育・保育施設の職員と小学校の教員が、年長（5歳児）から1年生までの2年間に焦点を当て、相互の教育内容や教育方法の充実を図るために協働して作成する「架け橋期カリキュラム」が、いま求められています。

スタートカリキュラムは、「小学校への適応指導である」という考えから、「こどもの育ちや学びを引き出す」という発想の転換が必要です。架け橋カリキュラムを作る過程で、スタートカリキュラムの充実を図っていきましょう。



# 架け橋期カリキュラムの作成に向けて話し合おう！～幼保小がつながるための3ステップ～

架け橋期カリキュラム作成に向けた話し合いは、幼保小のつながりある学びや豊かな体験を生み出し、主体的・対話的で深い学びの実現につながります。しかし、それが、作成のための形式的なやりとりで終始してしまったり、作成したカリキュラムが形骸化してしまったりしては意味がありません。幼児教育・保育施設と小学校が、育てたいこどもの姿を共有し、それぞれの考え方や指導方法の違いや特性、つながりを理解する。そして、それぞれの教育が充実するよう話し合ったことを実践する。実践したことを伝え合い改善する・・・「3ステップ」を行ったり来たりしながら、こどもたちの育ちをつなげていきましょう。

幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き  
(初版) 文部科学省



幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領

## 基本的考え方

こどもの心豊かで健やかな育ちを支援し、こどもがいかなる環境、家庭状況にあっても、分け隔てなく大切にされ、こどもにとって最も良いことは何かを第一に考え、自分らしく安心して生きることができる。

～流山市こども計画より～

## 安心・成長・自立

## 流山市教育大綱

学びに向かう力と自立するこどもを育む  
～流山市教育振興基本計画より～

## 各幼稚園・保育所(園)・認定こども園の教育・保育目標

【幼児教育で育みたい資質・能力の3つの柱】

- ・知識及び技能の基礎
- ・思考力、判断力、表現力等の基礎
- ・学びに向かう力、人間性等

## 学びの芽生え

## ●遊びを通した総合的なカリキュラム

5領域



小学校の前倒しではなく、将来の学びにつながる体験を、幼児期にふさわしい形で実現していきましょう。

## 【参考資料】

- ・「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開」(令和3年2月文部科学省)
- ・「子どもを中心に保育の実践を考える～保育所保育指針に基づく保育の質向上に向けた実践事例集」(令和元年6月厚生労働省)



## 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

- \*健康な心と体 \*自立心 \*協同性
- \*道徳性・規範意識の芽生え \*社会生活との関わり
- \*思考力の芽生え \*自然との関わり・生命尊重
- \*数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- \*言葉による伝え合い \*豊かな感性と表現

(幼稚園教育要領／保育所保育指針／幼保連携型認定こども園教育・保育要領・小学校学習指導要領より)

## STEP1

育てたいこどもの姿を共有しよう

## STEP2

生活や学習のねらいや方法、環境構成などについて相互理解を深めよう

## STEP3

こどもの育ちを見つめ、自校・自園の教育課程や指導計画を見直し、工夫・改善しよう

保護者や地域の方々とも共有することで、こどもたちの育ちがさらにつながっていきます。

## 各学校の教育目標

【小学校で育みたい資質・能力の3つの柱】

- ・知識及び技能
- ・思考力、判断力、表現力等
- ・学びに向かう力、人間性等

## 自覚的な学び

## ●各教科等の学習内容を系統的に学ぶ教育課程

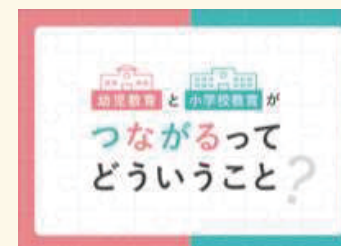
【教科・領域】

特別の教科道徳

|      |     |      |
|------|-----|------|
| 算 数  | 生 活 | 国 語  |
| 音 楽  |     | 体 育  |
| 図画工作 |     | 特別活動 |

## 【参考】「遊びを通した学び」

- ・「遊びは学び 学びは遊び “やってみたいが学びの芽” ～『やってみたい』から始まる学びの芽(知識・技能や思考力等の基礎、学びに向かう力)の育成～」
- ・「幼児教育と小学校教育がつながってどうということ？」(文部科学省)

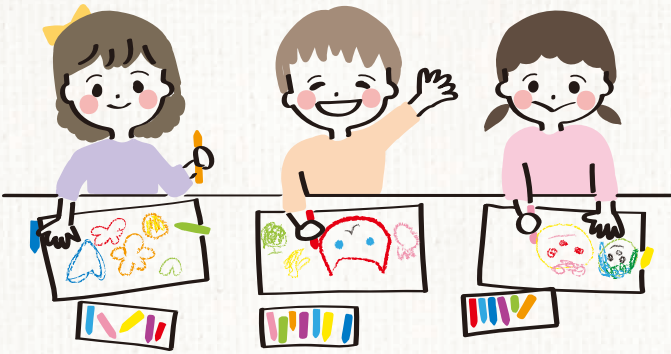


# 架け橋期カリキュラム作成のプロセス

「架け橋期カリキュラム」作成において大切なことは、幼児教育・保育の職員と小学校の教員とが、こどもの姿とともに語り合える体制を作り、それぞれの保育・教育の充実に向けて工夫・改善していくこと です。

下の表は、文部科学省の「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）」における先行自治体 の進め方のイメージで、各フェーズ間を行きつ戻りつしながら、発展させていきます。

本市においても、令和7年度から、まずは市内の幼児教育・保育施設と小学校とがともにこどもたちを中心 にした話し合いが行えるような「基盤づくり」を行っていただけるように、市教育委員会としても体制構築や研修の充実等、学校・園への支援を 行ってまいります。



## 令和7年度開催！幼保小連携の日

流山市では、令和7年度より、幼保小の職員が交流するための「幼保小連携の日」を市内小学校で開催します。令和7年度の目標は「顔の見える関係づくり・つながりの構築」です。それぞれの育てたいこどもの姿を共有することで、架け橋期カリキュラム作成の第一歩を踏み出していきます。

## 公私や園種の垣根を超えた体制構築に向けて「架け橋期カリキュラム推進会議」発足

令和6年、市内の架け橋期の教育・保育の実態について話し合うとともに、架け橋期カリキュラムの作成・普及に向けて「架け橋期カリキュラム推進会議」を立ち上げました。有識者の大学教授や市内の小学校、私立・公立の保育所（園）や幼稚園の代表者、関係部局の担当者等が参加し、議論を重ねています。

今後も、園・小学校が次のフェーズに進むために必要なことは何か。検討を重ね、支援できるようにしていきます。

| フェーズ                   | 各フェーズのイメージ                                                                                                                                                                                   | 実施に必要なこと                                                                                                                                         |
|------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| フェーズ1<br>基盤づくり         | <div>○管理職や担任間での関係づくり</div> <div>○こどもたちの交流の実施</div> <div>○「育てたいこどもの姿」の情報共有</div> <div>○見学会や参観日等による相互参観</div> <div>○スタートカリキュラム及び5歳児の学びのカリキュラム（接続期のカリキュラム）の作成、実践、改善</div> <div>事例1 (P.09)</div> | <div>□連携窓口を明確にする。</div> <div>□自校・自園の職員への積極的な参画を促す。</div> <div>□こども同士の交流活動や「幼保小連携の日」の年間計画を位置付ける。</div> <div>□学校要覧、園のパンフレット、お便りや行事予定などを交換する。</div> |
| フェーズ2<br>検討・開発         | <div>○【共通の視点】（※）をもとに、幼保小で意見交換し、架け橋期カリキュラムを検討</div> <div>○幼保小、双方に学びのある交流の工夫</div> <div>事例2 (P.10)</div>                                                                                       | <div>□連携のための構成員や所掌内容を考える。（体制整備）</div> <div>□課題に関する協議を行うとともに、自校・園での先生やこどもの変容をつかむ。</div>                                                           |
| フェーズ3<br>実施・検証         | <div>○【共通の視点】を生かした教育課程、指導計画の実施</div> <div>○こどもの自発的な交流へと充実</div>                                                                                                                              | <div>□相互参観を通して、相互の教育内容や方法についての具体的に話し合う。</div>                                                                                                    |
| フェーズ4<br>改善・発展のサイクルの定着 | <div>OPDCA サイクルの確立</div> <div>○持続的に改善・発展していく仕組みづくり</div>                                                                                                                                     | <div>□持続的、発展的な組織体制を構築する。</div> <div>□中長期的な視点や展望を持って話し合う。</div>                                                                                   |

※架け橋期カリキュラムを基に教育課程や指導計画等を具現化するために、幼保小の先生方がどのような視点で話し合い、整理していくのか、【共通の視点】についても令和7年度の架け橋期カリキュラム推進会議において検討していく予定です。

### Topic

### 地域の実態に応じたこどもたちの交流を

近隣に就学前の施設が多い小学校や、徒歩圏内に小学校がない園など、地域の実態は様々。就学前のこどもたちの不安を解消し、入学への期待をふくらませられるようにたとえば・・・

校庭の周りを散歩する、校庭で遊ぶ、運動会などの行事の練習を見学する、オンラインで交流する、お便りや活動の様子が分かる写真などを交換するなど、できることから始めませんか？



## 令和6年度「架け橋」に取り組んだ園・小学校の事例紹介

「架け橋期のこどもたちのつながりを話し合うって、どういうこと？」

実際に、幼保小の職員と一緒に話し合った2つの事例を紹介します。地域によって、これまでの幼保小連携の状況や環境など様々ですが、どちらの事例も「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、相互理解を深め、自校・園での実践につなげようとしています。

### 事例1

令和6年度新設された南流山第二小学校。幼保小の連携に向けて、どんなことがスタートできるか。まずは、多くの園児が入学する南流山幼稚園の先生方にお話を聞くことから始めました。



各園や学校の目標と照らし合わせ、1学期に取り組んできたこと、年長児が取り組んできたことを話し合いました。課題はつけたい力の裏返し。現状を話し合う中で、互いの育てたいこどもの姿が共有されました。

こどもたちの生活や活動、夢中になって取り組んでいることを紹介しながら、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をもとに、まとめていきました。育っている力、これからつなげていきたい力などに気づくことができました。



幼稚園や保育所（園）では、園児たちが遊びや体験ができるよう、どんな環境構成をしているのかな。小学校の環境づくりに取り入れられることは何かな。視点を明確にして、1年生の担任みんなで参観しました。

### 事例2

江戸川台地区で行われてきた、幼稚園、保育所（園）・小学校との交流会。交流することで確かに小学校入学への安心感は生まれているけれど、どんな力がついているの？今一度、交流の見直しを行うことにしました。



江戸川台小学校、江戸川台保育所、幼児教育支援センター附属幼稚園の教職員や管理職も集まって、幼保小のそれぞれの目標やそれぞれのカリキュラムを持ち寄りしました。この地区のこどもたちに、どんな力をつけたいか、そのためにはどんな活動ができるかを話し合いました。

交流会を行う前に、教職員同士の打ち合わせを行いました。「うまくいったね」「楽しかったね」だけではなく、小学生にはどんな力がつくのか、招待された年長児にとっても学びになる機会にするにはどのようにすればよいのか、共に考えます。



交流会が終わったら、教職員同士の話し合いの時間を取りました。年度初めに話しあった「つけたい力」はどんな場面で見られたかな。短時間ではありますが、活動の見直し・改善には欠かせません。

### Topic

#### 環境を通して行う教育ってどんなこと？

幼児期においては、幼児が生活を通して身近なあらゆる環境（人やもの、時間や空間、その場の雰囲気など）からの刺激を受け止め、自ら興味をもって環境に主体的に関わりながら、様々な活動を展開し、充実感や満足感を味わうといった体験を重ねています。そのために幼児教育や保育の現場では、一人一人のこどもがどのような体験を必要としているのかを明確にし、環境の中に盛り込む工夫をしています。

この幼児教育で行われる「環境を通して行う教育」は、小学校以降で進められている教育（「個別最適な学び」と「協働的な学び」）を一体的に充実し、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善につなげていくことと、こどもそれぞれの興味・関心や一人一人の個性に応じた多様で質の高い学びを引き出す観点から、つながっています。

#### 他にも、こんな話題で話し合ってみませんか？

1 小学校に入学した1年生は、どんなことを学習するんですか？

2 園（学校）では、どのような一日の流れになっていますか。小学校入学当初は、どんな様子ですか。

3 こどもたちが、今夢中になって取り組んでいることは、どんなことですか。

4 配慮を要するこどもに対して、園・学校ではどのような支援体制がありますか。

5 こどもが活動に入れない時、どうしていますか？どんな声掛けをしていますか。

他にも、自分たちにあった「話題」を考えてみるのもいいですね！

